

■ 割り箸

森林破壊につながるとして、敬遠されがちな割り箸。だが、国産品には、間伐材や建築に向かない木材を用いたものも多い。実は「エコな商品」として復権を目指す動きが広がっている。

林野庁によると、2012年の国内生産量は3億8400万膳。このうち国産材を利用したものは87%に上る。これに対し、輸入量は186億膳。

実はエコ復権の兆し

国内で消費される割り箸の98%を占め、そのほとんどが中国産だ。

金沢市の製造業者「中本製箸」の中本実会長(81)は「やっかいものの木を割り箸にすれば、地球環境に貢献できる」と訴える。

同社では、森林整備で伐採され



た間伐材や、節が大きくて建築材にできない木を主な材料にし、木材の地産地消に一役買っている。昨年、愛知県豊川市で開かれたご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」用に、間伐材の三河杉で52万膳を製造。先月の石川県知事選では県産杉で20万膳を作り、箸袋に投票を呼びかけるメッセージを載せてコンビニ店で配った。

林野庁担当者は「明治期には、たるやおけの端材で作られた。国産割り箸は今も昔も、無駄なものを活用するエコな商品」とPRしている。(寺)